

男女の役割：日米大学生 の認識調査



マシュー・サンダース

アドバイザー：
斎藤-アボット佳子教授
高橋周臣教授

アウトライン



- 研究の重要性
- 研究質問
- 研究の背景
- 研究方法
- アンケート調査の結果
- 結論
- 参考文献
- 謝辞

研究の重要性



- 日本への留学の間に気がついた社会的な差の一つが、男女の役割だった。日本は、はっきりとした男女の役割があるようだ。
- これはアメリカの文化を反映する、または、アメリカにおける男女の役割は日本に比べるとあいまいであると感じた。
- 私はどのように日本人とアメリカ人が自分自身の男女の役割を捉えているかをあきらかにしたい。

研究質問



1. アメリカと日本では男女の役割をどのように認識しているか。またどのようにその役割について考えているのか。
2. 男女の役割の認識はメディアや家族からどのように影響され、また形成されるのか。

研究の背景



- 男女の役割の意味
- 男女の役割の推移
 - 明治維新や占領時
 - 大学進学率
 - 日本の女性教育
 - 現在の大学進学率:アメリカ対日本
 - 日本の家事の推移
 - 日本の従業員の推移
- アメリカの家事や従業員の推移
- 男女の役割に対する影響力
 - 家族
 - メディア

日本の男女の役割推移：明治維新（1868-1912）



- 明治維新以前：
 - 男性のみが教育を受けることができた
（数学、科学、漢字の読み書き）
 - 女性が学んだのは家事、芸術、音楽、読書
- 明治維新時：
 - 公共教育における共学の開始と私立女学校の開校
 - 女性も教育を受けることが可能になった
 - 芸術、歴史、読み書き、体育、家庭科
 - 女性教育の主な目的
 - 「良妻賢母」教育

日本の男女の役割推移：占領時(1945-1952)

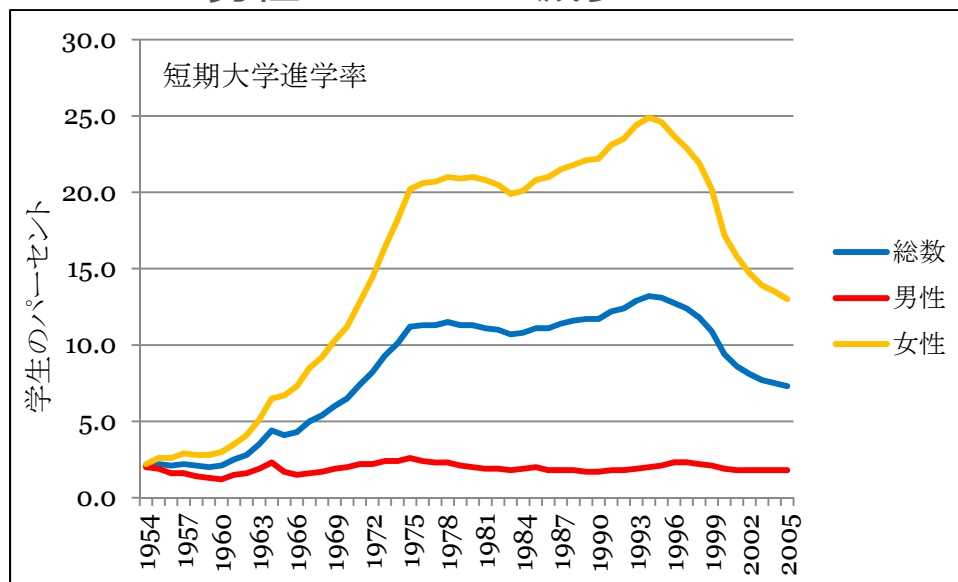


- 教育基本法: 新しい教育制度（1946）
 - 男女共学教育の設置
 - 教育の平等
- 新しい憲法（1947）
 - 雇用機会均等法
 - 婦人参政権
 - 法の下で男女間の差別の禁止

日本の短期大学への進学率 1954-2005

- 短期大学進学率

- 女性：3%-13%増加
- 男性：2%-1.8%減少



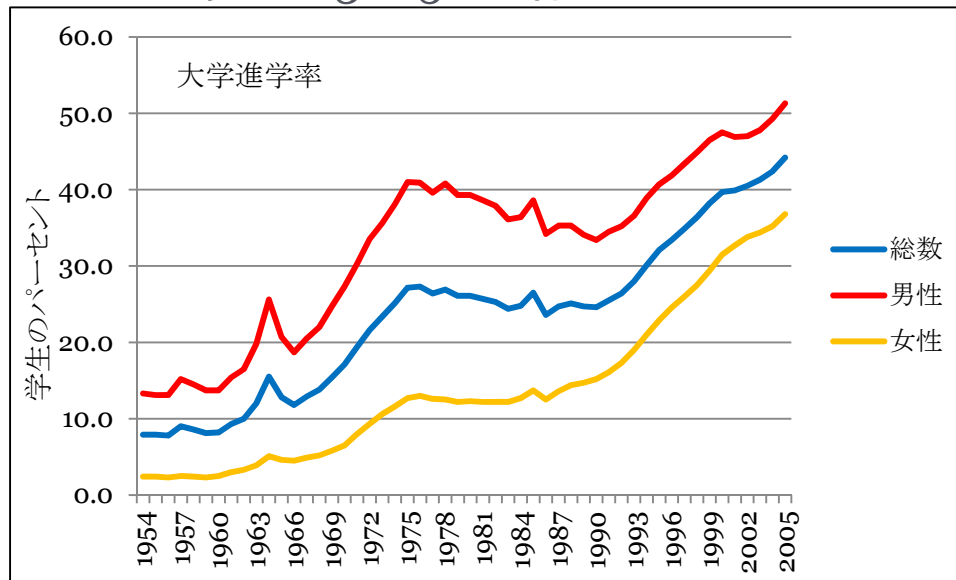
1. 短期大学のほとんどは女性のための学校である
 - a. 家事、家計などを教える
 - b. 「良妻賢母」になることを教える
2. 1995年以降短大への進学率は激減している

(Statistics Bureau, 2006)

日本の大学への進学率1954-2005

- 大学進学率

- 女性：5%-37%増加
- 男性:13%-51% 増加



1. 男女平等の努力

- a. より良い仕事を得るために短大ではなく大学へ進学

(Statistics Bureau, 2006)

日本の女性教育



- 1965年ごろまで良妻賢母が女性教育の中心
 - 女性教育の主な目的
 - 夫の手助けをする
 - 子供の教育に携わる
 - 日常の家事をする
- 教育に関わりなく、終身雇用者としては望まれなかった
 - 秘書
 - 寿退社が好まれる
- 現在
 - 現在もなお女性への待遇は厳しいが、社会は男女平等をより推進する傾向にある

現在の大学進学率：アメリカ対日本

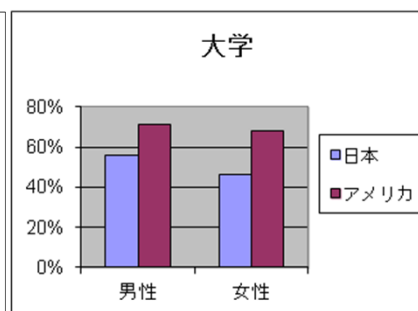
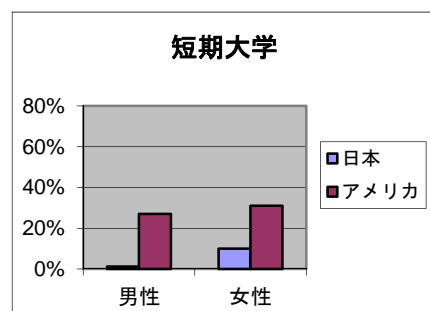
アメリカの2011年の進学率

●短期大学

- 女性：31%
- 男性：27%

●大学

- 女性：68%
- 男性：71%



日本の2011年の進学率

●短期大学

- 女性：10%
- 男性：1.2%

●大学

- 女性：46%
- 男性：56%

1. 短大進学率はアメリカのほうが高い
 - a. アメリカの短大：進学者の数は男女間で特に大きな差は見られない。短大から大学への編入は簡単である。
 - b. 日本の短大：進学者はほとんど女性である。短大から大学への編入は難しい。
2. 大学進学率の男女間での差はアメリカと日本で異なる (アメリカ:3%、日本:10%)

日本の家事の推移



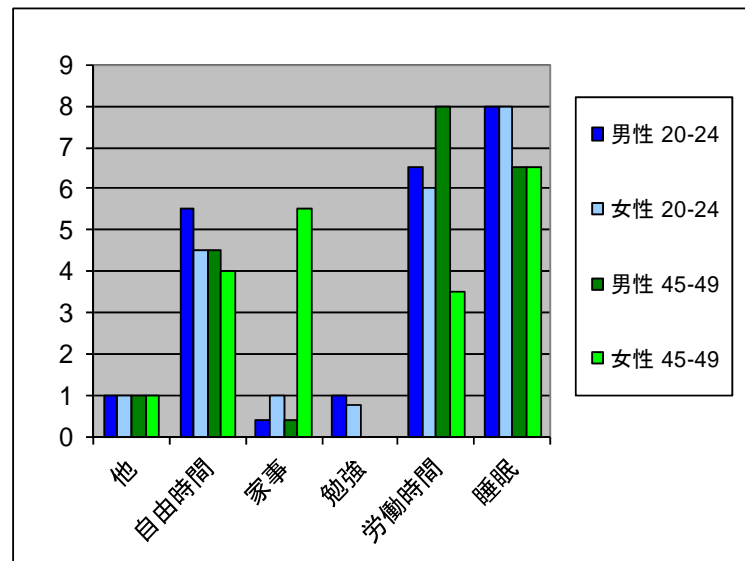
20-24歳

●家事

- 女性：1時間
- 男性：1時間以下

●仕事時間

- 女性：5時間
- 男性：6時間



45-49歳

●家事

- 女性：5時間
- 男性：1時間以下

●仕事時間

- 女性：3時間
- 男性：8時間

1. 20-24歳：家事にかかる時間は男女で同じ
2. 45-49歳：女性一家事、男性一仕事

(U.S. Census Bureau, 2012; Statistics Bureau, Ministry of Internal Affairs and Communication, 2003)

日本の従業員の推移



20-24歳

- 正規雇用
 - 女性:36.4%
 - 男性:38.5%
- アルバイト
 - 女性:22%
 - 男性:19.8%

45-49歳

- 正規雇用
 - 女性:26.3%
 - 男性:69.9%
- アルバイト
 - 女性:31.8%
 - 男性:21%

1. 20-24歳女性：社会に貢献する＝正規雇用
2. 45-49歳女性：家庭中心＝アルバイト
 - a. 正規雇用：男性が女性より2.5倍高い
 - b. アルバイト：女性が男性より15倍高い

アメリカの家事や従業員の推移

1965年

• 一週間に :

- 子育て
 - 母 : 10時間
 - 父 : 3時間
- 家事
 - 母 : 32時間
 - 父 : 4時間
- 労働
 - 母 : 8時間
 - 父 : 42時間

2011年

• 一週間に :

- 子育て
 - 母 : 14時間
 - 父 : 7時間
- 家事
 - 母 : 18時間
 - 父 : 10時間
- 労働
 - 母 : 21時間
 - 父 : 37時間

1. 役割の変化

- a. 女性は家庭から職場へ
- b. 男性は家事に関わるようになる

2. 現在 : 未だに女性は家庭、男性は職場という傾向に変わらない

(Parker, K. & Wang, W. 2013)

男女の役割に対する影響力：家族



- 家庭が男女の役割の概念の基本となる
 - 両親の役割（例：働いている父、専業主婦）
 - おもちゃ：
 - 男子：アクションフィギュアやミニカ
 - 女子：人形や料理道具
 - 家事：習慣づけ
 - 女子は母親の手伝いをする（家事）
 - 男子は父親の手伝いをする（修理）

(Lindsey, L. 2010; Hendry, J. 2003; Witt, S. 1997.; Levey, T & Silver, C. 2006)

男女の役割に対する影響力：メディア



アメリカ	日本
<ul style="list-style-type: none">● 子供向け番組<ul style="list-style-type: none">○ 多くの男性キャラクター○ 男女の役割の先入観	<ul style="list-style-type: none">● 家族のドラマ<ul style="list-style-type: none">○ 一般的とされる家族形態○ 男性や女性の適切とされる振る舞い
<ul style="list-style-type: none">● 宣伝<ul style="list-style-type: none">○ 男女の役割の描写<ul style="list-style-type: none">▪ 女性：家事、子育て▪ 男性：仕事、スポーツ	

(Lindsey, L. 2010; Smith, S.; Valaskivi, K. 2000)

研究



研究質問

1. アメリカと日本では男女の役割をどのように認識しているか。またどのようにその役割について考えているのか。
2. 男女の役割の認識はメディアや家族からどのように影響され、また形成されるのか。

研究方法



- 回答者

- 日本人の大学生: 32人
 - 男性: 14人
 - 女性: 18人
- アメリカ人の大学生: 34人
 - 男性: 22人
 - 女性: 12人

- オンラインアンケート

- Googleフォームス

英語

Perceptions of Gender Roles Among Japanese and American Students

My name is Matthew Saitoh. I am a senior graduating with a B.A. in Japanese Language and Culture. For my research project I am researching gender roles among university students in Japan and the U.S. I would greatly appreciate your input. This survey will only take approximately 10 minutes.

* Required

1. Gender *
Mark only one oval.
 Male
 Female
2. Age *
Mark only one oval.
 17-20
 21-25
 26-30
 30+
3. Nationality *
Mark only one oval.
 American
 Japanese
 Other _____
4. Ethnicity *
Mark only one oval.
 White
 African American
 Native American/Alaskan
 Hispanic
 Native Hawaiian/Pacific Islander
 Asian
 Other _____

日本語

男女の役割: 日米大学生の意識調査

この調査は、性別と国籍を問わず、大学で学んでいる日本人とアメリカ人の大学生を対象としています。本調査はアンケート形式で実施されます。

* 必須

1. 性別 *
次の中から一つだけ選択してください。
Mark only one oval.
 男性
 女性
2. 年齢 *
次の中から一つだけ選択してください。
Mark only one oval.
 17-20
 21-25
 26-30
 30+
3. 国籍 *
次の中から一つだけ選択してください。
Mark only one oval.
 アメリカ人
 日本人
 Other _____
4. 民族 *
次の中から一つだけ選択してください。
Mark only one oval.
 白人
 黒人
 先住民
 ヒスパニック
 ハワイアン/太平洋島民
 アジア人
 Other _____

研究質問 1

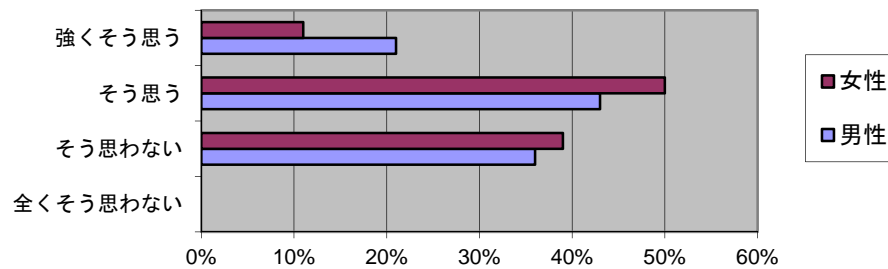


アメリカと日本では男女の役割をどのように認識しているか。またどのようにその役割について考えているのか。

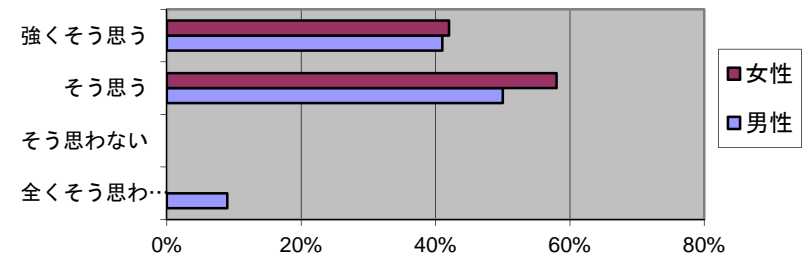
女性の役割：労働時間の平等

- 日本：「女性は男性と同じ労働時間であるべきだ」という意見に賛成する女性も男性も多いが、反対する女性も男性もかなりいる。
 - 女性と男性は何れも、女性は家庭、男性は仕事という考えを持っている
- アメリカ：ほぼ100%賛成する
 - 職場での平等が求められる

労働時間は男性と同じがよい（日本）



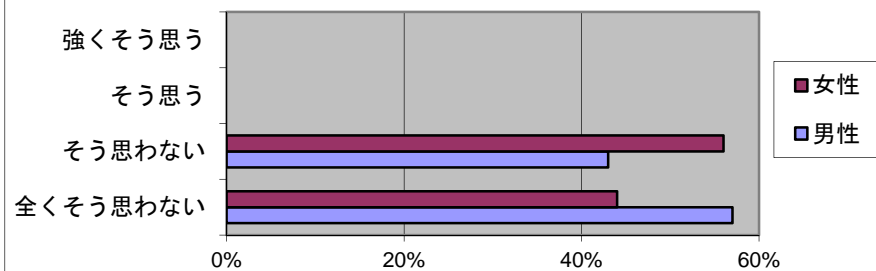
労働時間は男性と同じがよい（アメリカ）



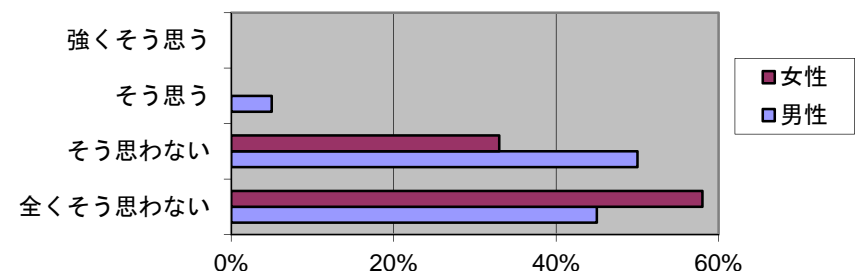
女性の役割：パートタイム

- 日本：「女性はパートタイムだけすればいい」という意見には全く反対する
 - 「男性と同じ労働時間にすべきである」という意見には反対するが、女性はパートタイムだけすればいいという意見もない
- アメリカ：ほぼ100%が反対する
 - 職場において、男女の平等を求める傾向が続いている

女性はパートタイムだけがよい（日本）

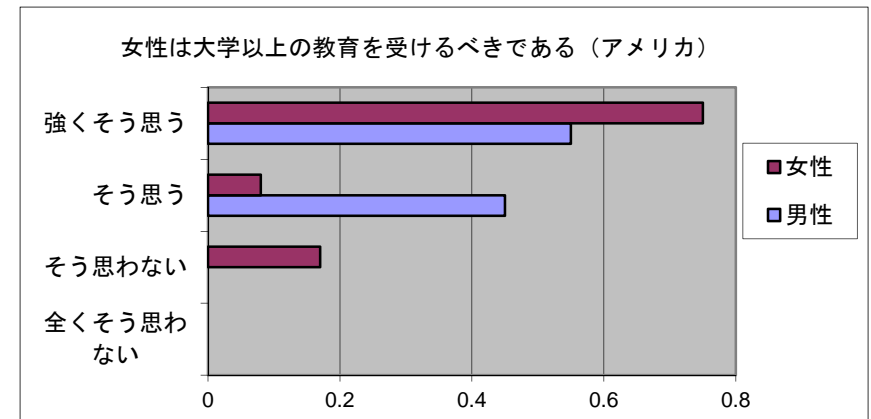
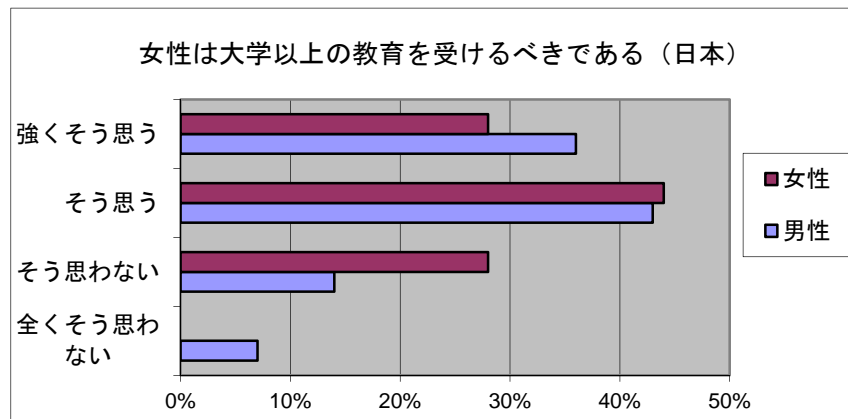


女性はパートタイムだけがよい（アメリカ）



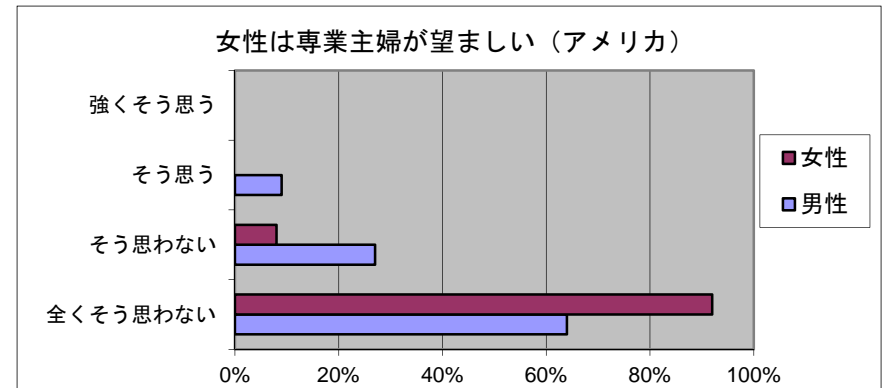
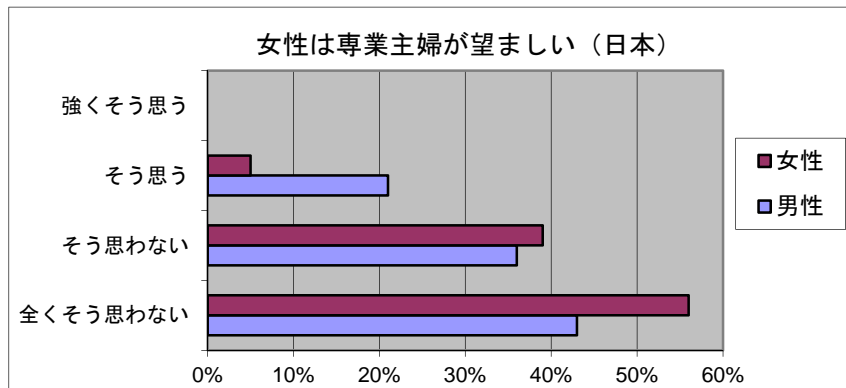
女性の役割：高等教育

- 日本とアメリカ：「女性は大学以上の教育を受けるべきである」という意見に多くの男性も女性も賛成する
 - 日本もアメリカも女性の高等教育は必要であるとする男性も女性も多い



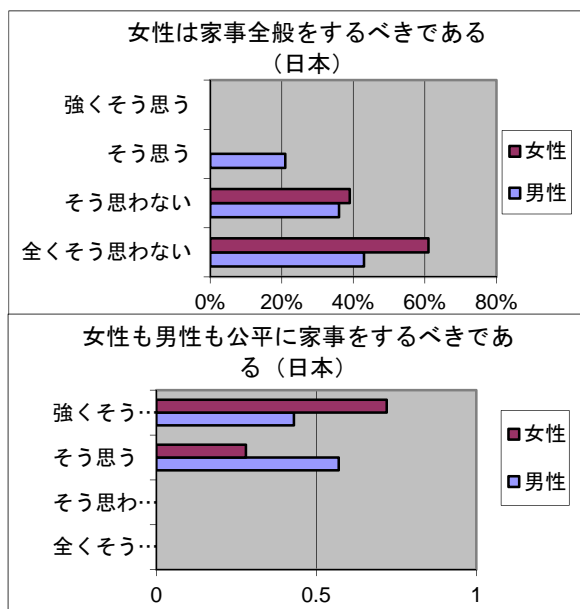
女性の役割：専業主婦

- 日本とアメリカ:「女性は専業主婦が望ましい」という意見にはほとんどの男性も女性も反対しており、女性の高等教育、社会進出の傾向は続いている
 - 日本は21%の男性が賛成しているということは伝統的な考え方が続いているといえるかもしれない。一方、アメリカには賛成する男性はほとんどいない。

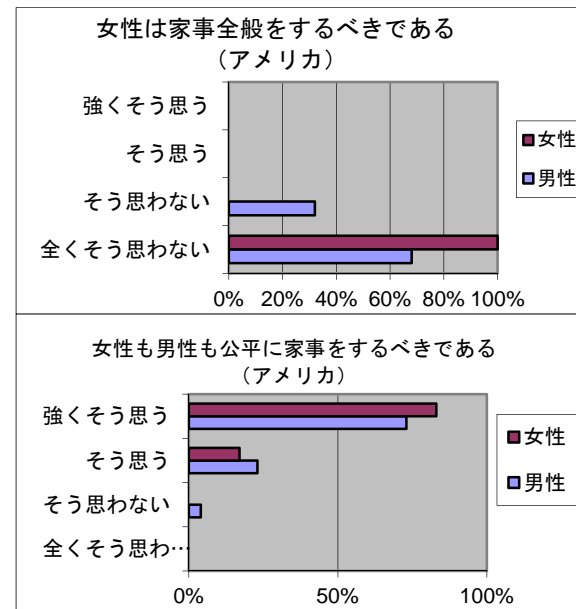


女性の役割：家事

- 日本もアメリカもほとんどの男性も女性も「女性は家事全般をするべきである」という意見には反対で「家事は公平にするべきである」という意見である



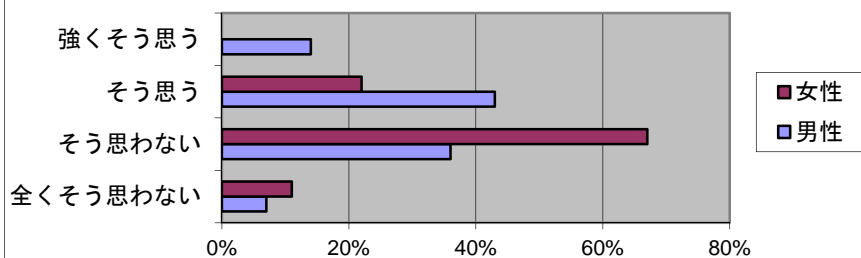
- 日本は賛成する男性は伝統的な考え方を反映しているかもしれない
- アメリカでは100%の男性も女性もこの意見には反対である。これは伝統的な考え方を全く反映していない



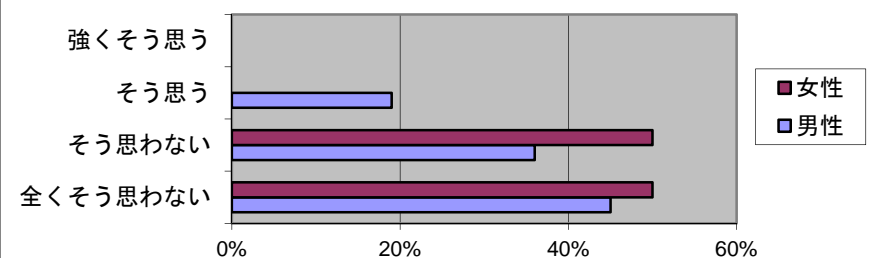
女性の役割：子育て

- 日本では「女性が子育てをするべきである」という意見にほとんどの女性は反対して、ほとんどの男性は賛成する
 - 賛成した男性は女性が子育てをするべきであるという伝統的な考え方であるように思われる
- アメリカでは「女性が子育てをするべきである」という意見にほとんどの男性と100%の女性が反対する。
 - 約20%の男性が賛成しているが、伝統的な考え方に従っているのかもしれない

女性が子育てをするべきである（日本）



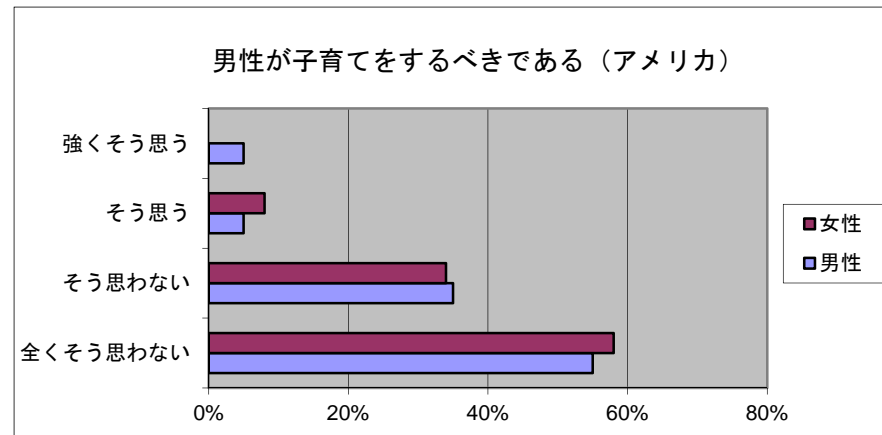
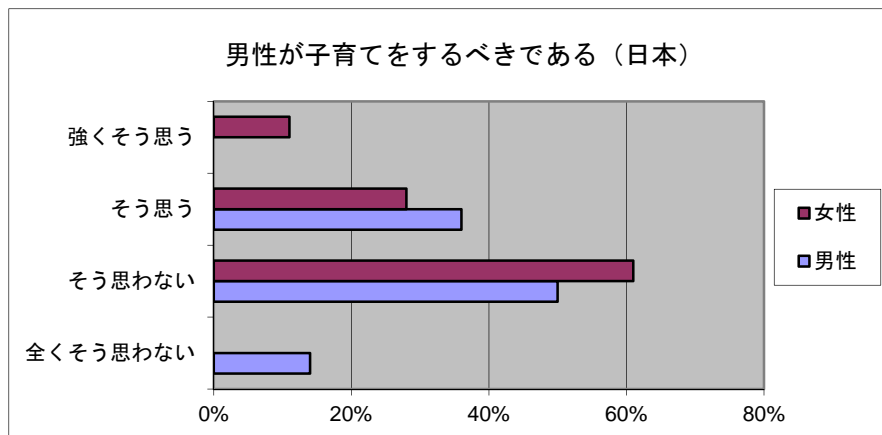
女性が子育てをするべきである（アメリカ）



男性の役割：子育て



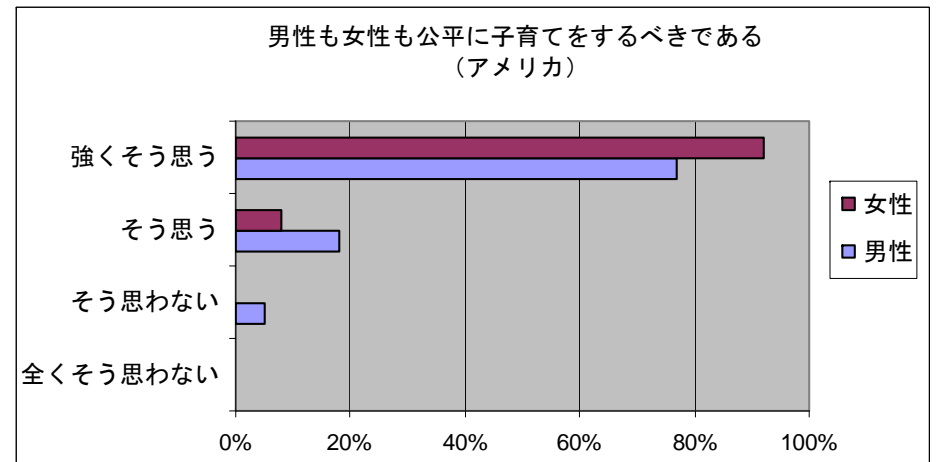
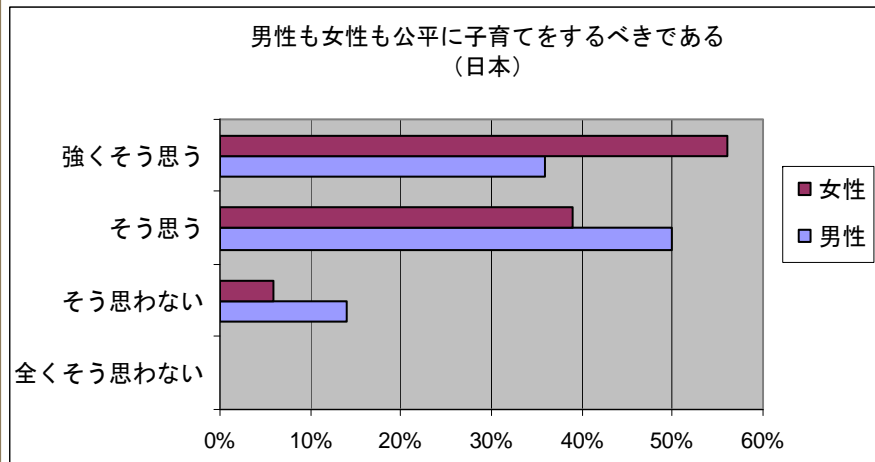
- 日本は「男性が子育てをするべきである」という意見にはほとんどの男性も女性も反対するが、賛成する男性も女性もいる。
 - 男性の役割が職場から家事へという変化を表わしているのかもしれない
- アメリカはこの意見にほとんどの男性も女性も反対する。
 - 男性が子育てをする人としての考えはまだない



男女の役割：子育て



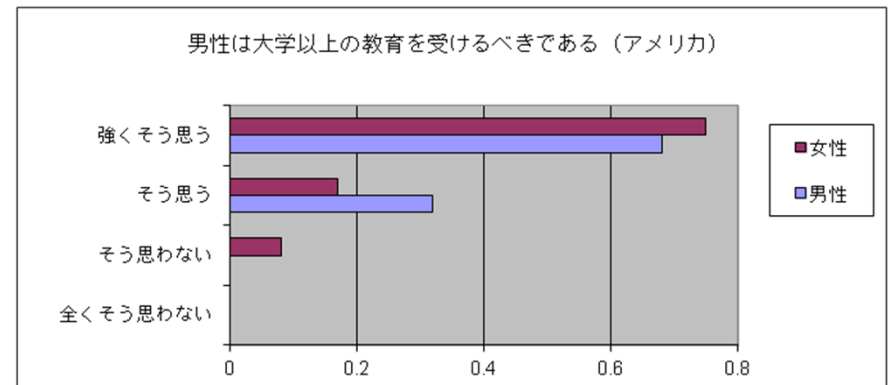
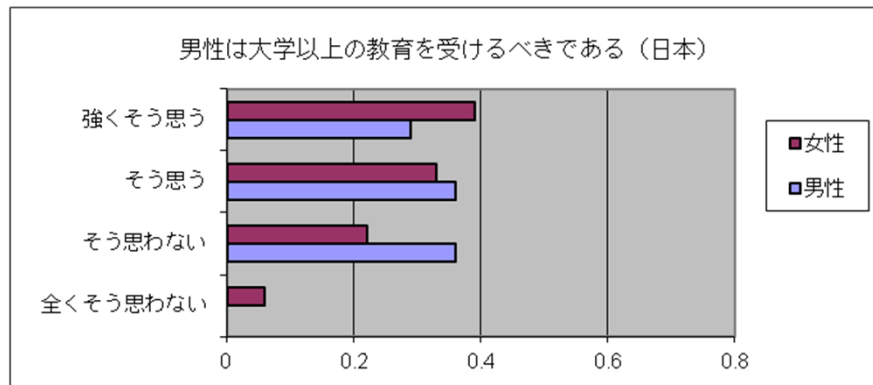
- 日本もアメリカも「男性も女性も公平に子育てをするべきである」という意見に男女共賛成する
 - 女性が高等教育を受けたり就職することを望むことと相まって、男性の子育ての役割がより多く望まれようになっている



男性の役割：高等教育

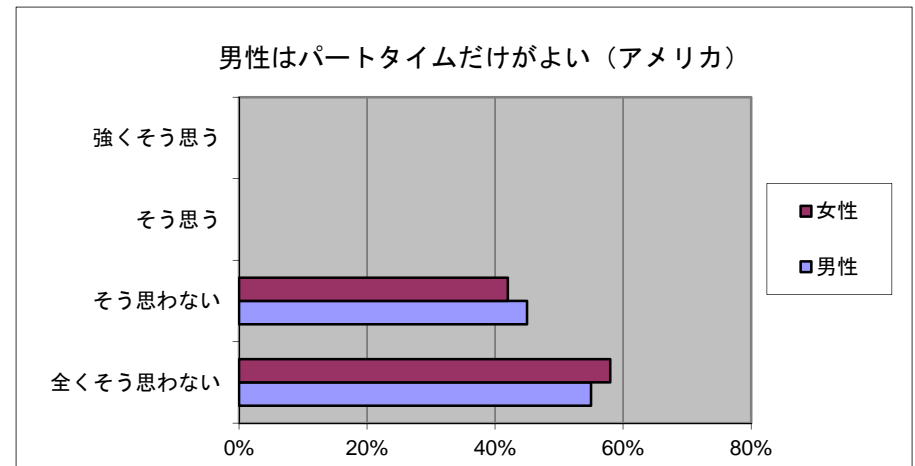
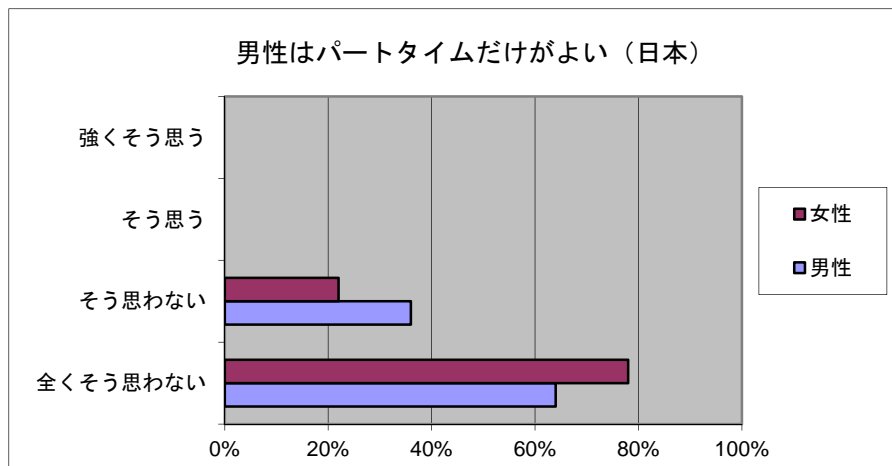


- 日本では「男性は大学以上の教育を受けるべきである」という意見に賛成する男性も女性も多いが、反対する男性も女性も僅かだが少しいる
 - 男性にとって教育まだ大切だが、必ずしも必要ではないかもしれない
- アメリカではほとんどの男性も女性も賛成する
 - 男性にとって高等教育は必要だ



男性の役割：パートタイム

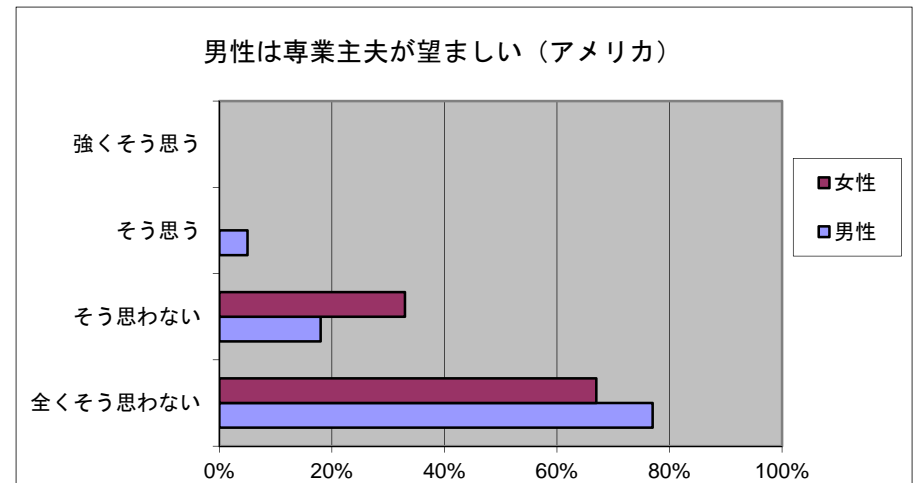
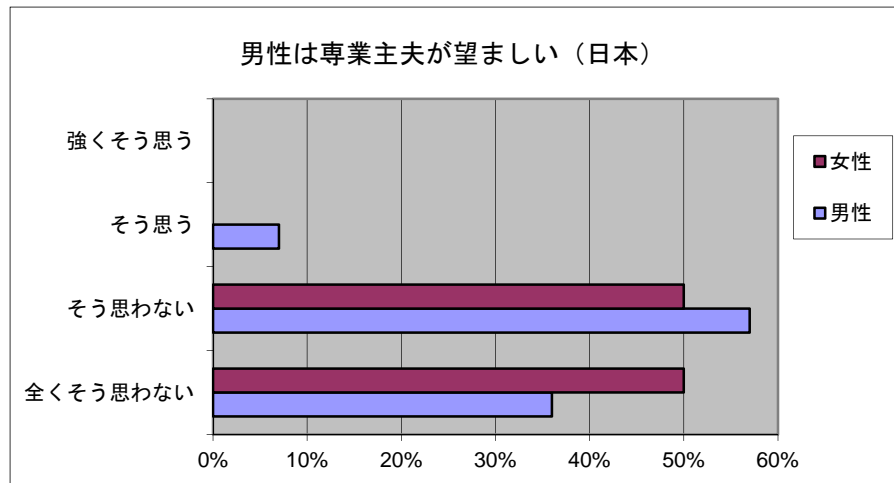
- 日本もアメリカも「男性はパートタイムだけがよい」という意見に男性も女性も反対する
 - それは男性が一家を支えるという考えを反映している



男性の役割：専業主夫



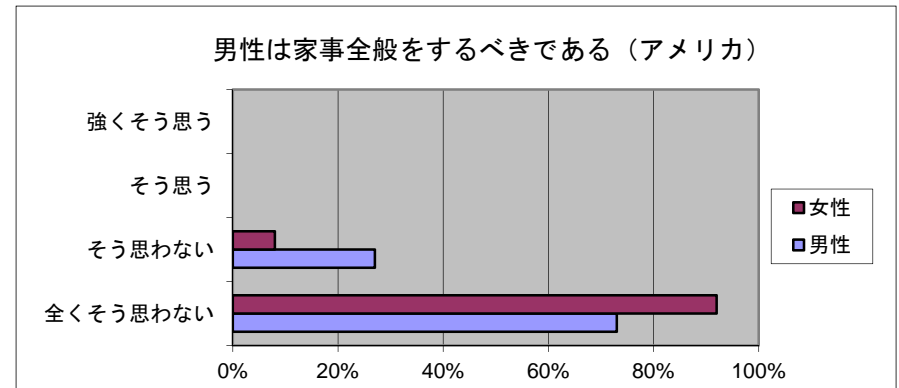
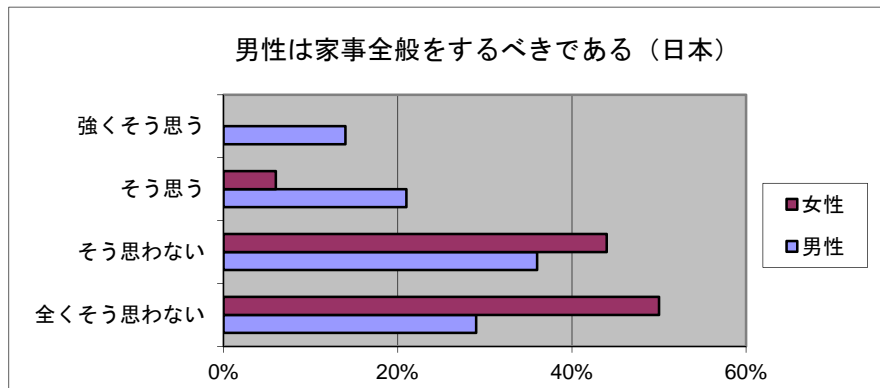
- 日本もアメリカも「男性は専業主夫が望ましい」という意見に反対する
 - 男性が家事専業という考えはまだない



男性の役割：家事



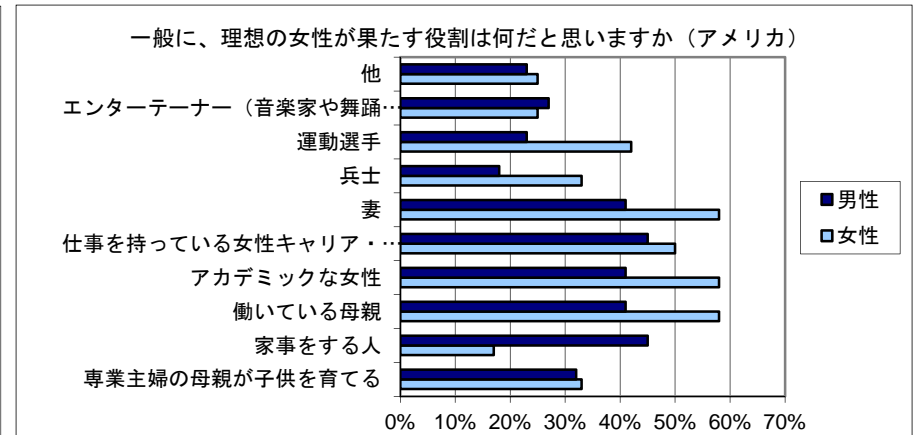
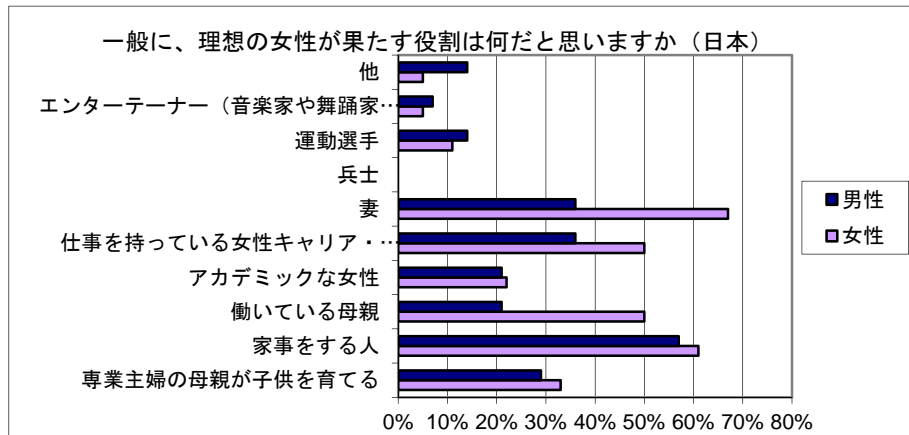
- 日本では「男性は家事全般をするべきである」という意見に男性も女性も反対する
 - 女性は男性が家事を専業にするという考えにはまだ馴染まない
 - 男性の中には家事労働に対して肯定的に考えている男性が現れ始めているのかもしれない
- アメリカでは男女共回答者の全員が反対する
 - 家事労働は男性の第一の仕事だとは考えていない



女性の理想的役割

- 日本: 主婦、キャリア・ウーマン、働いている母親、家事をする人、専業主婦の母親
 - 家事をする人や子育てをする人という伝統的な役割と現代の働いている女性という組み合わせ
 - 主婦から職業婦人という女性の役割に対する価値観推移を表している

- アメリカ: ほとんどの回答者は全ての項目が理想的な役割と答えた
 - 女性は男性と平等であるし自分が望むもの何でもできるという信念を反映している
 - 女性は妻、働いている母親、アカデミックやキャリア・ウーマンは今なお女性の中で大切な役割である。一番優先しているのは家族と仕事であることを反映している

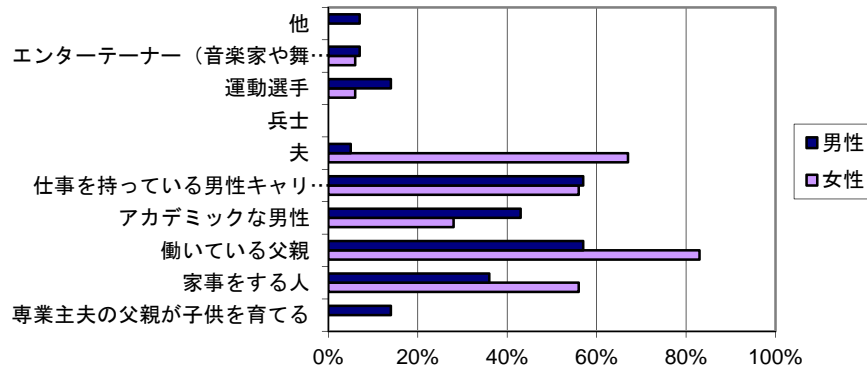


男性の理想的役割

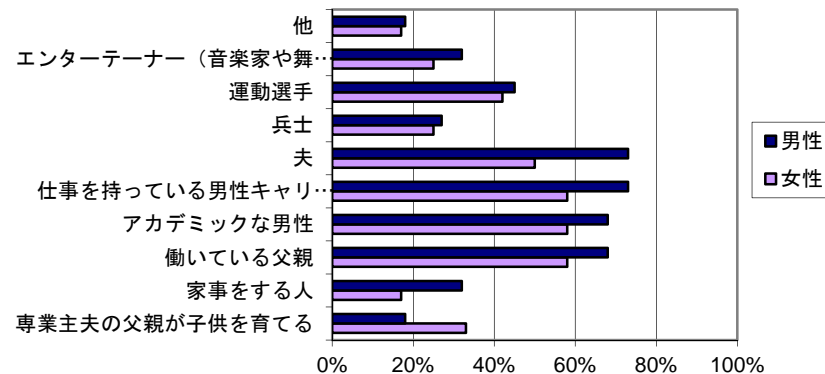
- 日本: 高学歴のキャリア・マン、働いている父親が一番大切である
 - 女性は夫、家事をする人、働いている父親と答えた。また、女性は男性が結婚するべきだと思っていて家事を積極的にすべき
 - 男性は理想的な役割はキャリア・マン、働いている父親、家事をする人として考えている。仕事は大切だと考えているが、もっと大切なことは家と家族の役割にしている

- アメリカ: 高学歴のキャリア・マン、働いている父親、夫が大切であるが、多くの方は全ての役割と答えた
 - 女性は家庭的な父親と答えた。子育てに協力することを望んでいる
 - 男性は夫、キャリア・マン、働いている父親と答えた。結婚すること、働くこと、そして家族の面倒見を期待している

一般に、理想の男性が果たす役割は何だと思いますか（日本）



一般に、理想の男性が果たす役割は何だと思いますか（アメリカ）



研究質問1の調査結果の内容



- 日本：
 - 女性が家事をして、男性は職場へ働きに行くという伝統的な役割がまだ続いている。
 - 子育てに関する新しい考え方
 - 男性は職場から家庭へ、女性は家庭から職場へという変化
 - 全体的に男女平等に向けた変化が見られる
- アメリカ：
 - 男女平等を強く期待している
 - 女性は働きながらまた同時に母親であること、男性は働きながら同時に父親であることを期待する
 - 家事や子育てが公平に行われることを期待する

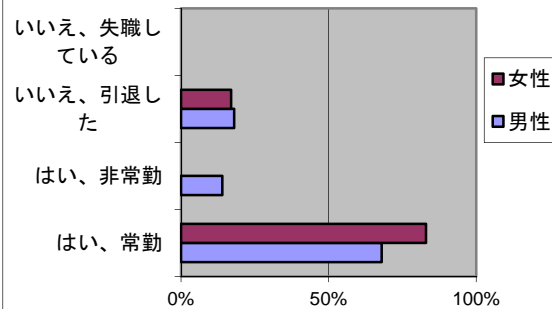
研究質問2



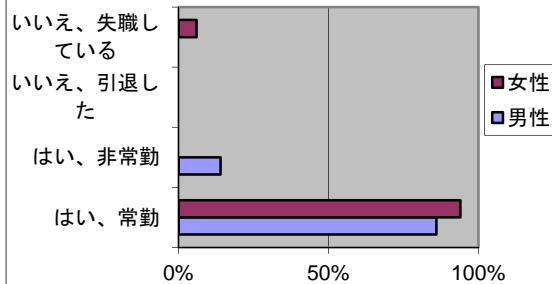
男女の役割の認識はメディアや家族からどのように影響され、また形成されるのか。

男女の役割に対する影響力：両親の職業

父親は仕事がありますか（アメリカ）



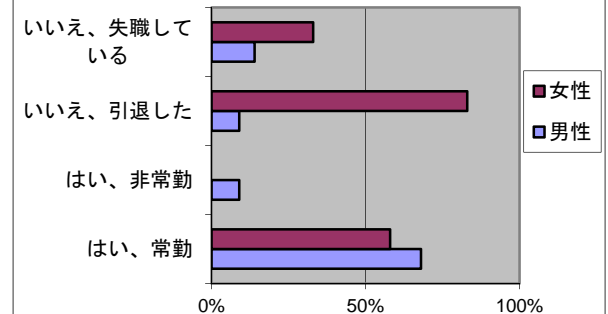
父親は仕事がありますか（日本）



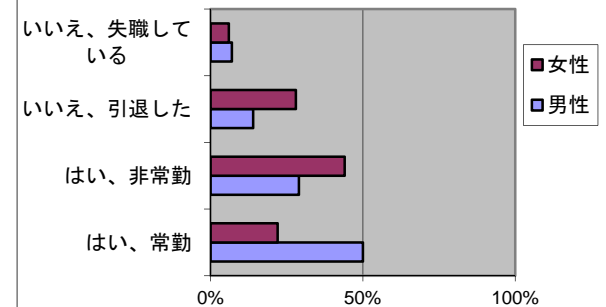
- 日本：父親は一家を支える；母親は非常勤で働くか家事を行う
 - 男性は職場で女性は家庭でというイメージを作り出している
- アメリカ：父親も母親も同様に正規雇用者

- まだ働いていない母親のほうが多い
- 男性も女性も働いたほうがいいというイメージを作り出している

母親は仕事がありますか（アメリカ）



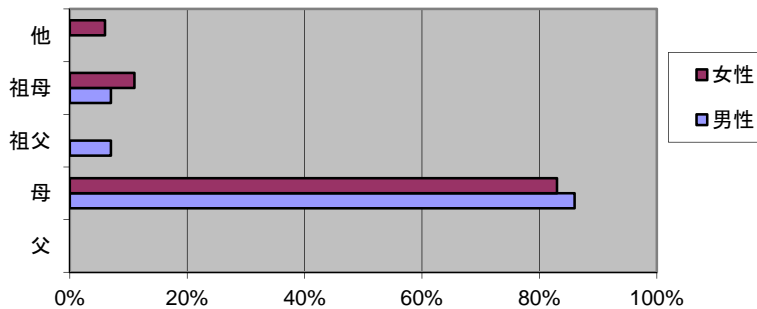
母親は仕事がありますか（日本）



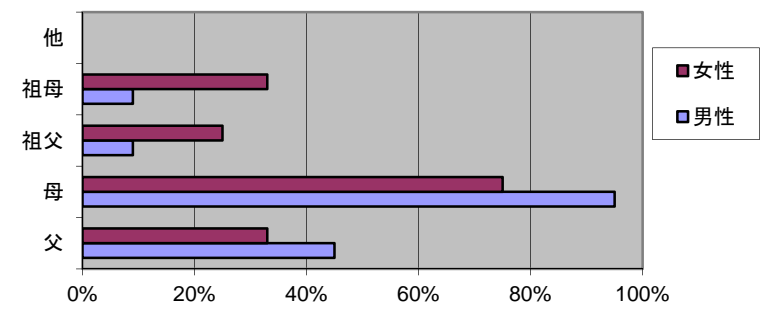
男女の役割に対する影響力：家族

- 日本:「子供の時に、誰が一番よくそばにいましたか」という質問に対し、ほとんどの人が母親と答え、父親と答えた人は全くいなかった
 - 母親は家事や子育てをする存在、父親は働く存在というイメージを表している
- アメリカ:同じ質問に対し、多くの人々が母親と答えたが、母親も父親もと答えた人も多い
 - 母親が家事や子育てをする存在というイメージのほうが強いが、母親も父親も家にいるというイメージも持っている

子供の時、誰が一番よくそばにいましたか（日本）



子供の時、誰が一番よくそばにいましたか（アメリカ）



男女の役割に対する影響力：おもちゃ

● 日本：

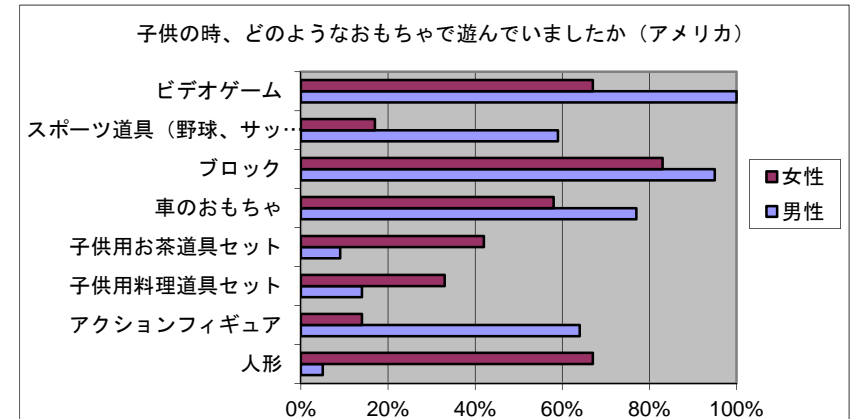
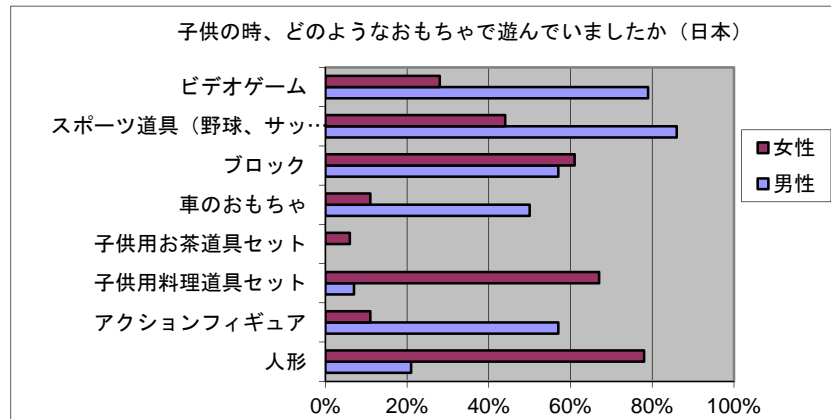
- 女性は子供用の料理道具セットと回答：家事の習慣化
- 男性はビデオ・ゲーム、スポーツ道具と回答：コンピュータ技術、身体的な活動・競争の始まり

● 日本とアメリカ：

- 男性はアクションフィギュア、女性は人形：理想的な男性／女性のイメージ
- ブロックは男女共に使われる

● アメリカ：

- 数人の女性が子供用のお茶セットと料理セットと回答：家事の習慣は残っている
- 多くの男性がスポーツ道具と回答：身体的な活動・競争の始まり
- ほとんどのおもちゃは男女共通：早い時期から同様の習慣が形成される



男女の役割に対する影響力：テレビ

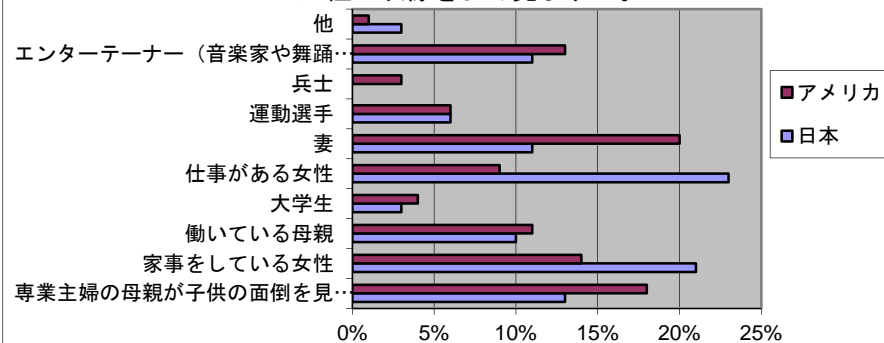
女性

- 日本：キャリア・ウーマン、家事をする人、専業主婦
 - 働く女性というイメージを要求しているが、伝統的な役割も同時に押しつけている
- アメリカ：妻、専業主婦、家事をする人
- 伝統的な役割のイメージが残っている

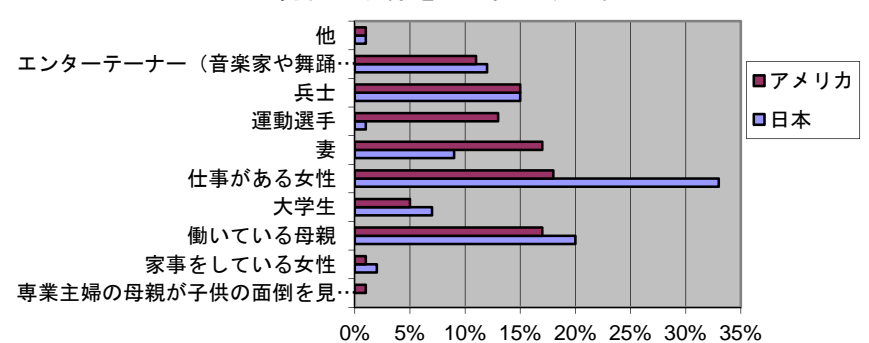
男性

- 日本：ほとんどがサラリーマン、働く父親
 - 男性は財政的な面で家族の面倒を見る
- アメリカ：さまざまな答えがあるが、家事をする人、専業主夫の父親のイメージはない
- 父親とサラリーマンを強調

一般に、テレビコマーシャルの中でどんなことをしている女性の映像をよく見ますか。



一般に、テレビコマーシャルの中でどんなことをしている男性の映像をよく見ますか。

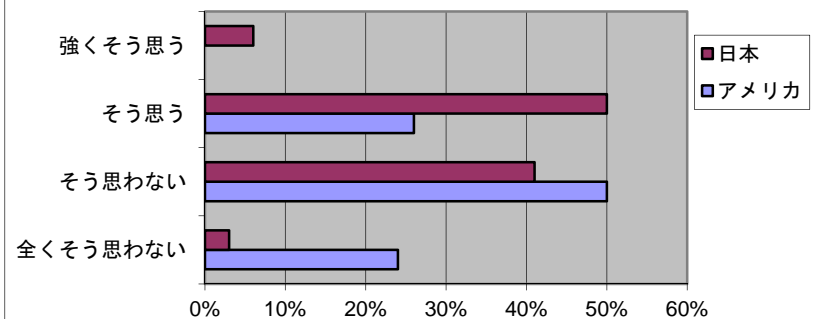


男女の役割に対する影響力: テレビ番組

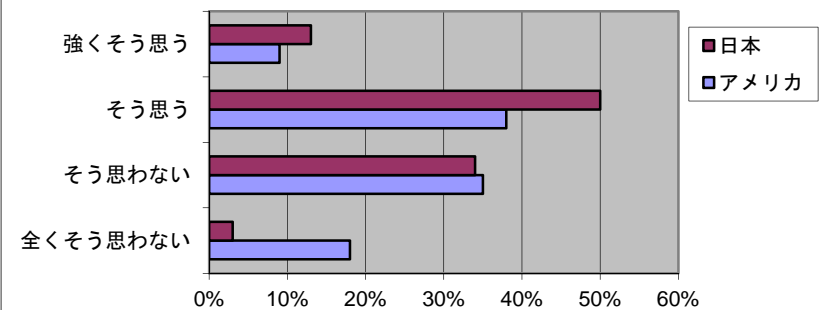


- 日本もアメリカも、「テレビ番組中の男性と女性の役割は実際の役割を正しく反映しているか」という質問に対し、約半数の男性と女性は賛成し、また残りの半数は反対している
 - 50%はテレビ番組における役割が実際と同じようであることを期待している。しかし、残りの50%はそう思っていない

テレビ番組の中で女性の役割は実際の女性の役割を正しく反映していると思いますか。



テレビ番組の中で男性の役割は実際の男性の役割を正しく反映していると思いますか。



研究質問2の調査結果の内容



- テレビのコマーシャルも番組も男女の役割に強い影響を及ぼしている
 - テレビ上の役割は実際の役割と同じであることが期待されている
- 子供の頃のおもちゃは、テレビほどではないが男女の役割に影響を及ぼしている
 - 日本: 女性は子供用の料理セットで家事体験をする
- 日本: 家族構成と期待されている男性の役割は一致しない
 - 質問1の結果は男性がより家族の一員としての役割を果たすべきか、または父親としての役割をより重視すべきかということを表している
- アメリカ: 家族構成は男女の期待する役割を反映している
- 親の雇用については、日本とアメリカでは主として男性は常勤の仕事をするのであり、女性は、一つは常勤で働くこと、もう一つは家の中で家事をすることという、役割に対する期待を反映している

結論と議論



- 日本: 伝統的な役割は未だに期待に影響を及ぼしているが、一般的に男女の役割間での平等に対する期待に変化は見られる
- アメリカ: 伝統的な役割はそれほど存在しないが、男女の役割間での平等が期待されている
- メディアは期待された役割において強い影響力を持っている
- テレビでの男女の役割の描写は現実と同じようであることが期待された
- 家族生活:
 - 日本: 家事をする母親の存在は長く続いている伝統的な役割に影響している
 - 子供のお手本となる父親がいないことは、男性が家事の手伝いをすることに対しての期待との矛盾を生む
 - アメリカでは母親が父親のように働くことを期待している

研究の限界点



- 回答者が住んでいる地域、年歳に限りがあった

将来の研究



- 日本での子育てに対しての男女の役割について
- 役割に対する影響力についてもっと調査すること
 - インターネット、映画、教育
- 日本では「子供の時に、誰が一番よくそばにいましたか」という質問に対して、父親と答えた人は全くいなかったのに、男性の中には家事労働に対して肯定的に考えているという結果であった。父親への期待と現実の相互関係はあるかどうかをさらに調べたい
- 大学卒業後の男女の役割の現実と期待されていることがどうなっているかを調べたい

参考文献



1. Hendry, J. (2003). *Understanding Japanese Society*. New York, NY: Routledge.
2. Lindsey, L. , & Christy, S. (1997). *Gender Roles : A Sociological Perspective*. Upper Saddle River, N.J.: Prentice Hall.
3. Witt, S. (1997). Parental influence on children's socialization to gender roles. *Adolescence*, 32(126), 253-359.
4. Valaskivi, K. "Being a Part of the Family? Genre, Gender and Production in a Japanese TV Drama." *Media, Culture & Science*, 2.3 (2000): 309-325.
5. Levey, T. (2006). Gender and value orientations: What's the difference!?! the case of Japan and the United States. *Sociological Forum*, 21(4), 659-691.
6. 北村 優子. "Gender Equality Dilemma in Japanese Society: How Traditional Ideas Affect both Women and Men." *文教大学国際学部紀要*. 19.1 (2008): 65-78. Internet.
7. Takamura, S. (2012). "Economic Empowerment of Women in Japan." *4th Global Forum on Gender Statistics*. United Nations Statistics Division Retrieved April 18, 2014, from <http://unstats.un.org/unsd/default.htm>.
8. Smith, S & Granados, A. "Gender and the Media." *National PTA*. Retrieved April 10, 2014, from <http://www.pta.org/members/content.cfm?ItemNumber=2258>.
9. Parker, K. & Wang, W. (2013). "Modern Parenthood." *PewResearch Social & Demographic Trends*. Retrieved April 10, 2014, from <http://www.pewsocialtrends.org>.
10. Arima, A. (2003). Gender stereotypes in Japanese television advertisements. *Sex Roles*, 49(1), 81-90.
11. Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology - Japan. (2012). *Statistics: Overview*. Retrieved March 9, 2014, from <http://www.mext.go.jp/english/statistics/index.htm>.
12. U.S. Census Bureau. (2012). *Educational Attainment of the Population 18 Years and Over, by Age, Sex, Race, and Hispanic Origin: 2013*. Retrieved March 9, 2014, from http://www.census.gov/compendia/statab/cats/education/higher_education_institutions_and_enrollment.html.
13. Statistics Bureau, Ministry of Internal Affairs and Communications. (2006). *就学率及び進学率*. Retrieved April 18, 2014, from <http://www.stat.go.jp/index.htm>

謝辞



- 斎藤-アボット佳子教授
- 寺島教授
- 高橋教授
- ガス・レナド
- 日本人の留学生たち